

今朝の聖書の譬話は私達が礼拝で使っている新共同訳聖書では、父親が兄に「今日、ブドウ園に行って働きなさい」と言うと、兄は「いやです」と答えたが、後で考え直して出かけた。弟にも同じことを頼むと「お父さん、承知しました」と答えたが、出かけなかった。この二人のうち、どちらが父親の望みどおりにしたか、という話ですが、口語訳聖書では、兄は「お父さん、まいります」と答えて行かなかった。弟は「いやです」と答えたが後から心を変えて出かけたとなっていました。どっち？

勿論、良い返事をして行かなかったのは兄でも弟でもあり得ました。精神科医の河合隼雄さんによると、人間の心の勝負は誰でも51:49だそうです。100%の決心を固めて返事をするのもたまにはあるでしょうが、多くの場合、どちらかと言うと今はこういう気持ちだと返事をしているそうです。ですから「言った」と言っただけで腹を立てる必要もないし、絶望する必要もないのです。私たちは紙一重の処で返事をしていることが多くて、言葉が本心とは限らないことも多いのです。だから、「後で考え直して」が本人にとっても大事なことなのです。

聖書では神様でも考え直されます。ノアの洪水の物語では、人間が常に悪いことばかり考えているので人間を造ったことを後悔されて滅ぼす決心をされます。40日40夜大雨が降り続いて大洪水が起こり、人間の中で生き延びたのは箱舟に入っていたノアの家族だけでした。水が引くとノアは箱舟から出て、神様を礼拝しました。神様は洪水によって引き起こされた悲惨な地上の姿をご覧になって、こう言われます。「人に対して大地を呪うことは二度とすまい。人が心に思うことは、幼い時から悪いのだ」。滅ぼすことにした時の同じ理由で、二度と滅ぼさないと言われました。もう一度考え直して立ち上がり出発する所に神様の祝福と導きがあるように思います。

今朝は世界聖餐日です。1940年に北米の教会連盟が「全てのキリスト教会が聖餐式を守って、国籍、人種の差別を越え、あらゆるキリスト教徒がキリストの恵みによって一つであることを新たに自覚する日」と定めて始まりました。1940年は1939年9月にイギリスとフランスがドイツと戦争に突入し、1941年12月に日本とアメリカが戦争に突入する前の年でした。そんな中で、我々は神の家族であるともう一度確認して平和を祈る礼拝が設けられました。時代や感情に流されず、もう一度考え直して神様の御心を聴くことに勝る決断はありません。